

GPSを活用したサルの行動域調査及び追い払い体制整備実証（宮崎県）

- 対策に苦慮しているサルの被害について、関係機関が協力して、新たな対策手法を検討。
- GPSデータを活用・分析し、サルの行動域を把握するとともに行動パターンを予測。
住民は、エサの除去、有害捕獲、柵の設置に、得られたデータを活用して効果的な対策の実施につなげる。

○サルGPS試験の概要

- ・ 試験地：宮崎県日南市。
- ・ 構成員：日南市有害鳥獣対策協議会、岩切環境技研株式会社、宮崎大学、宮崎県
- ・ 使用機器：GLT-02、GLR-02コントローラー式、専用タブレット（サキットデザイン社製）
- ・ データ計測：メスサル1頭にGPS設置。GPS測定は、3時間おきに実施。
- ・ データ収集と解析は、岩切環境技研株式会社、宮崎大学、宮崎県で実施。得られたデータを住民へフィードバック。
- ・ 住民は、得られたデータをもとに、エサの除去、有害捕獲、柵の設置等により鳥獣被害対策を実施。

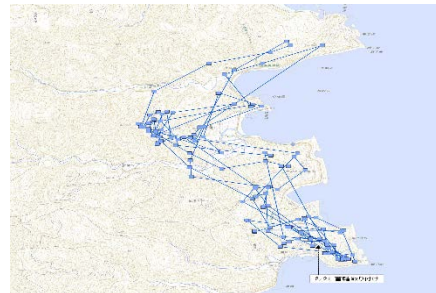
○試験の様子



<GPSを取り付けたメスサル>



<GPSデータの受信>



<サルのGPSデータ>



<解析による行動予測>

○期待される効果

- ・ サルのGPSデータをもとに、行動域の把握、エサ場や寝床の位置を把握することで、エサ場の除去対策や捕獲檻の設置場所の参考情報として活用が期待される。
- ・ サルの行動位置を把握することで、詳細な個体群管理を実施し、適正規模に管理することが期待できる。
- ・ 行動パターンを予測することで、集落への出没周期を事前に把握。待ちから、攻めの被害対策へ、有効な手法の確立が期待できる。